



生きる力を学んだ YMCAキャンプ

金子 功

Kaneko Isao

横浜YMCA常議員
横浜ワイズメンズクラブ

▼横浜YMCAとの出会いは「少年部（ボーイズ）」

私が、終戦後まもなく再建された横浜YMCAの少年部（ボーイズ）に入会したのは1950年、中学2年生の時です。現在横浜YMCAには少年部という形での事業活動はありませんが、当時は、中学・高校の男子のみを対象とした総合的プログラムとして少年部がありました。毎週土曜日の午後に例会が行われ、多い時には100名近いボーイズが横浜市内の異なった学校から集まってきました。

YMCAに行けば卓球、バスケットボール、ソフトボールが楽しめるというような軽い気持ちで入会したのですが、礼拝に始まり、学年別、あるいは全学年合同のプログラムなどが行われました。リーダーたちはよき兄貴であり、話し相手としてよく面倒をみてくれました。また、いろいろな学校の仲間と会うことができ、土曜日の例会までの一週間が待ち遠しいほど楽しいものでした。

▼夏のキャンプは、ボーイズ最大の楽しいプログラム

何といってもキャンプほど楽しい思い出はありません。横浜YMCAが、独自のキャンプ場を持たない頃でしたから葉山、辻堂、観音崎等の施設を借用してのキャンプでしたが、それぞれのキャンプ場に特徴があり楽しい思い出があります。そのような中、1956年に横浜YMCA念願のキャンプ場「真鶴キャンプ場」が完成しました。完成までの間、少年部の活動では、何度かワークキャンプを行いました。海に続く道づくり、草刈りなどを行いました。落成式で私は青少年代表として「青少年の修養の場として、ますます心身を鍛え、立派な人物を育成することに努めます」と力強く宣誓しました。

真鶴キャンプ場での海遊びやキャンプファイヤーは、忘れ得ぬ経験になっています。危険な岩場の海水浴場も、安全について学ぶ良い機会でした。キャンプファイヤーの火を囲みながら世界の平和を祈り、時には夕陽会で、神様の話を聞いたり、リーダーたちに身の上相談をしたり、友だちと将来の夢を語り合ったことも忘れがたい思い出です。みんなで歌ったキャンプソングは半世紀以上たった今でも覚えています。



真鶴キャンプの貴重な写真。一番右が金子さん（リーダー）

▼つなかりの機会を実感

キャンプは、なんといってもボーイズの中心的なプログラムでした。一人でも多くの少年に楽しい夢を少年時代に抱かせたいという願いから、ボーイズでは、1年前から積立貯金を計画的に実施し、多数のボーイズがこの貯金を使ってキャンプに参加しました。蚊取り線香を売って資金をつくる努力もしました。ボーイズのキャンプのために横浜ワイズメンズクラブが支援してくれたことは、現在、横浜YMCAが行っている「子ども支援（BAPY Be A Partner of the Youth）基金」につながっていると思います。

1962年、私は米国のボストン大学大学院に留学する機会を得ました。留学に先立ち当時の横浜YMCA総主事が国際的に通用するYMCAの会員証を発行してくれました。YMCAが国際的な性格を持つ運動体であるとの知識はありましたが、YMCAホステルを利用したり、留学中にボストン郊外のモールデンYMCAでデイキャンプリーダーをした時にはこの会員証が大いに役立ち、YMCAの世界的な広がりや、つなかりを実感したものです。

SNSやスマホの流行により、これからのユースが、顔の表情や声の調子から人の気持ちをくみ取る術を失いつつある今日、キャンプで経験する共同生活は、喜びや、悲しみ、痛みを分かち合うことを習得する大切な場であることを痛感します。YMCAがこれからの100年においても、人生に必要な生きる力をYMCAキャンプで学ぶ機会を提供し続けることを切に願っています。



Profile



- 1950年 横浜YMCA少年部（ボーイズ）に入会。
- 1956年 真鶴キャンプ場開設。落成式にて宣誓を行った。
- 1962年 ボストン大学大学院に留学。留学中、マサチューセッツ州モールデンYMCAのデイキャンプリーダーを経験する。YMCAの世界的な広がりやつなかりを経験し、その後の就職先にて活かされた。（勤務先：日本国ニューヨーク総領事館、ニューヨーク国連本部、NKKニューヨーク事務所、駐日カナダ大使館）
- 1994年 横須賀YMCA運営委員に就任。
- 2002年 横浜YMCA国際事業委員に就任。
- 2004年 横浜YMCA常議員に就任。
各種国際大会に参加する他、横浜YMCAの海外事業活動に参加。